

ご案内
Baba &
Nyonya
House Museum

皆様がこのガイドなしのツアーを楽しんでいただけますよう、心より願っております。

ツアー終了後、本ガイドブックは受付にご返却下さい。

プラナカンの紹介



ようこそ、パパとニョニヤハウス博物館へ！この三つのテラスハウスからなる博物館はチャン氏により1861年に建築された邸宅です。

16世紀には、貿易を求め、中国やインド、アラビアの商人は海峡植民地（シンガポール、マラッカ、ペナン）にやってきました。彼らの中で現地人と結婚した者とその子孫は「Peranakan」（プラナカン）、或は「Straits-born」（海峡で生まれた人）と呼ばれています。中には、インド系プラナカンとジャウィ系プラナカンもあります。

こちらでは、中華系プラナカンのある一つの家族のストーリーを紹介します。

家系について

1861年以来、チャン一族はこの邸宅に4代に渡って住み続けました。1985年に、御一般へ公開されました。壁にある肖像画は、この家に住んでいた人たちです。男性のプラナカンは「パパ」と呼ばれ、「紳士」を意味する丁寧な言葉です。それに対し、「ニョニヤ」は「婦人」を意味します。



チャン・チェン・シュー
(1865-1919)

パパチャン・チェン・シューは農園主でした。彼は、若いころガンビルという薬用の作物を育てていました。後に、ゴム栽培に転換し、多くの財を成しました。地域の住民たちは、彼のことを親しみを込めて「Towkay Cermin Mata」（メガネをかけているボス）と呼んでいました。この邸宅にある家具の多くはチェン・シュー氏が住んでいたころから54歳で亡くなる1919年までの物です。



チー・ギー・ギョク・ニョー
(1865-1933)

チー・ギー・ギョク・ニョー氏はチェン・シュー氏の妻です。彼女は親しみを込めて「Mak Gemuk」（太っているママ）と呼ばれていました。



チャン・セン・キー
(1895-1983)

チェン・シュー氏にはたった一人の嫡出子があります。名前は「チャン・セン・キー」です。彼は「相親」（本人または家族の者が相手の所へ出向いてその容姿・人物を見るお見合いのようなもの）で1917年に「Ho Joo Suan」（ホ・ジュー・スアン）と結婚しました。チェン・シュー氏が、亡くなった後、彼は父の財産を相続することになります。セン・キー氏とジュー・スアン氏は8人の子供を持っていました。



ホ・ジュー・スアン
(1901-1987)

ホ・ジュー・スアン氏はプラナカンで「Tengker 通り」（テンケラー通り）で育ちました。彼女の父である「Ho Seng Giap」（ホ・セン・ギャブ）は「Twa Ko」（トゥア・コー、兄貴という意味）と呼ばれていました。一家は「Ho Siang Gap」（ホ・シャン・ガップ）というカレー粉のブランドを経営していることで有名でした。彼女は、末娘です。

グラント・レセプション・ホール



中華系プラナカンは「Baba-Malay」（パパのマレー語）という福建語と現地のマレー語が融合した特殊な言語を話します。

マレーの風習（adat）を取り入れていたものの、彼らにとって華人のアイデンティティを保持することもとても大事でした。このグラント・レセプション・ホールは名誉あるゲストをもてなす場としてだけでなく、邸宅の持ち主たちによって行われる商談などにも使われています。

この部屋のレセプション・ホールの配置は、典型的な海峡華人のもので、左右対称の設計は、当時の華人の故郷である中国の清と酷似しています。

この部屋にある全ての物は左右対称的で、家具の数は二の倍数でなければなりません。

グランド・レセプション・ホール(続き)

B



a. 絹糸の刺繍 (北向きの壁)

この装飾品は七福神の一つである「福祿寿」(ふくろくじゅ)です。幸福、繁栄、長寿という三徳を意味しています。この三徳は本刺繍に蝙蝠(幸福)、鹿(繁栄)、鶴(長寿)に具現化されています。

グランド・レセプション・ホール(続き)

B



b. 絹糸の刺繍(南向きの壁)

このセンターピースは鳳凰を描いたものです。鳳凰は中国の神話における「四霊」の一つです。鳳凰は古くから女帝のモチーフとして使われてきました。この刺繍は女帝統治下であった中国の平和と繁栄に対する、当時の中国人の敬意の表しであると言われています。



c. 門の上にある木製の看板

門の上にあるプラカードは 1986 年にチャン・チェン・シュー氏がこの邸宅に移住してきたころに与えられたものです。「チェン・シュー殿、お引越しおめでとうございます！ 壮麗かつ豪華なお宅へ！」と書いてあります。看板は「Quan Shun」(チュアン・シュン)という店で作られたものです。

ダーク・ホール



このホールは若い女性（ニョニヤ）が同伴者を伴わず行ける一番遠い場所です。網戸は外から娘が見られるのを防ぐための装置です。外の様子を見たいときは、その網戸にある切り口から覗くしかありませんでした。

ダーク・ホール (続き)



a. 提灯（左）



b. 提灯（右）

手描きの提灯は家の外に置かれています。その用途は、家の所有者を知らせることと家業の名前を知らせることです。

左の提灯「Swee Hin」（スイー・ヒン）は家業の名前で、右の提灯はチャン氏一家の姓です。電気が導入される1920年代までは、提灯はろうそくで灯されていました。

エアウェル(換気用中庭)



この街にある家は深さ 149メートルで、広さ17メートルなっています。この土地はオランダ植民地時代に規定された土地です。左右の壁には窓が付いていません。風通しと光は中庭にある四つの主なエアウェルから入ってきます。それに雨は中庭に降り家を涼しくします。雨は「好運」と「幸福」(Ong オン)を招き、また水は「富」の象徴とされています。

a. 階段

この家の特徴の一つである金ばくを貼った階段です。階段作りには、釘は一切使われませんでした。このことから、「一家が唯一釘を使ったときは棺を建てたときだけ」という噂をもたらしました。

階段のシンボルは「八仙」(はっせん、道教の仙人の代表的存在)を表現しています。「八仙」はそれぞれ「貧乏、富み、権力、低い身分、老、若、男、女」を代表します。

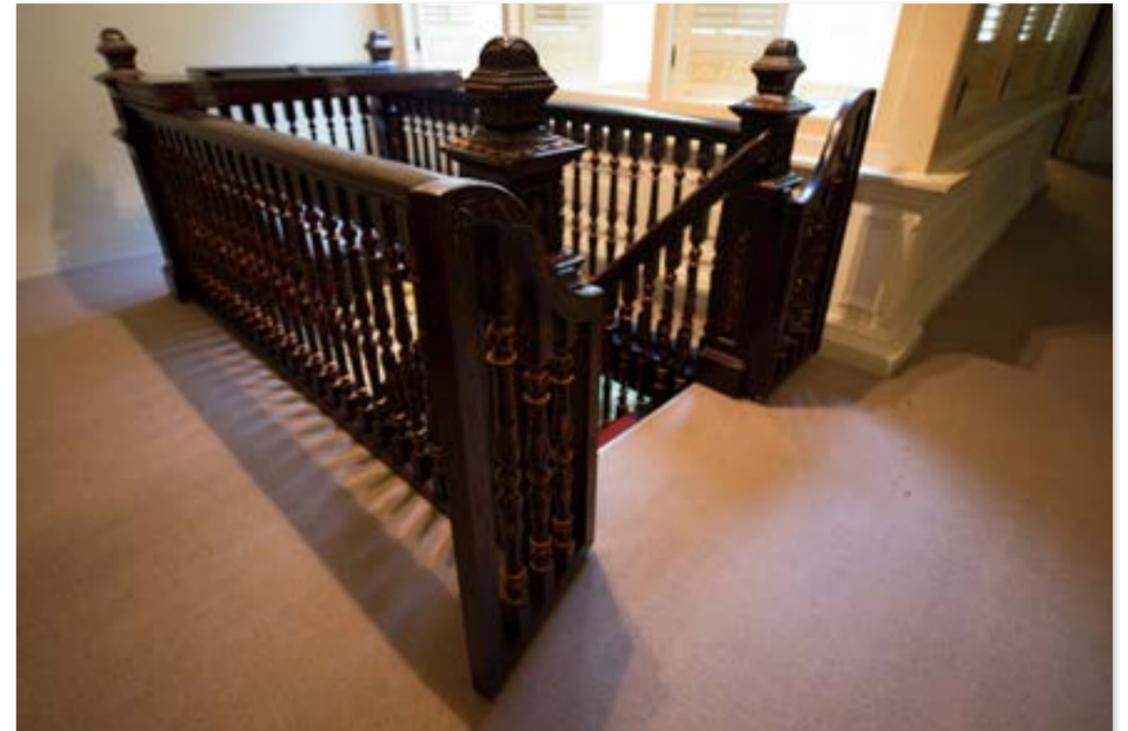
八仙の一人である呂洞賓は払子(ほっす)と剣を持っています。伝説によると、彼は50歳の時に不老不死となり、病の神様として祀られるようになったそうです。彼は世界中を回って竜を殺し、あらゆる悪を駆除すると言われています。



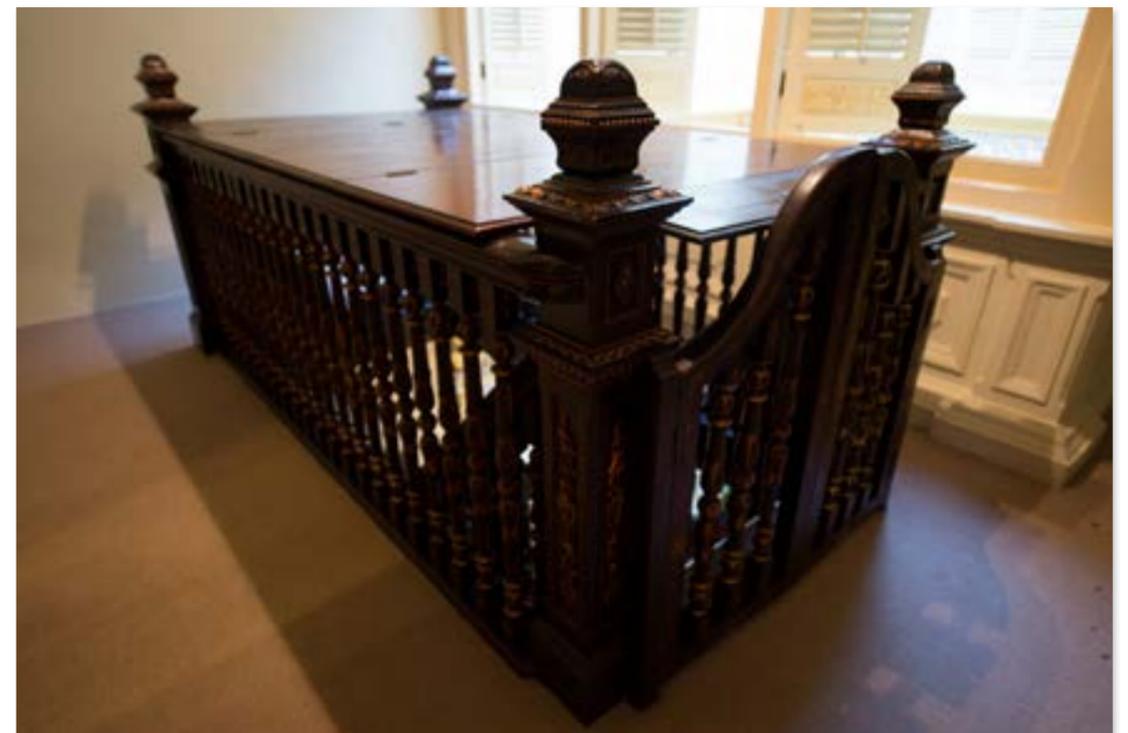
開閉できるパネル付の階段



ようこそ、リビング・エリアへ。この階段は9世紀のセキュリティ機能を再現しています。開閉できるカバー付きでカギをかけることができます。泥棒の侵入と子供が階段から転ぶのを防止するほか、夫が夜遅く帰るときに家の中に入れたいための機能までも果たしています。



a. 開いている階段



b. 閉まっている階段



ここはかつてチェン・シュー氏とチー・ギー・ギョク・ニョー氏に次いで、セン・キー氏とジュー・スアン氏の主寝室でした。

今日この部屋は花嫁の寝室のショーケースとして公開されています。

中華系プラナカンの結婚式は、12日にわたる盛大な祝い、儀式、宴会で有名です。花嫁の寝室のデコレーションは結婚式が始まる前に年配の女性によって行われる儀式の一種です。

a. 祝福のベッド儀式

ベッドのデコレーションと「Stangee」と呼ばれるインドの香料を使った清掃が終わった後、祝福の儀式が始まります。当日指定された時間に花婿の家族から選ばれた一名の少年がベッドの上で3回転がります。少年の干支（十二支）が結婚する二人の干支（十二支）と合わなければなりません。この儀式は夫婦の「子孫繁栄」と「第一子が男であるように」という願いを込めたものです。



b. 花嫁と花婿の服装

1917年12月に結婚したチャン・セン・キー氏とホ・ジュー・スアン氏のウエディング・ドレスです。20世紀に、マラッカの結婚式の服装は上海から、若しくはシンガポールに住んでいる上海人の仕立屋に委託していました。当時の服装は清（1644-1912年）のファッションでした。

c. チュン・トツ作法(ゲーム)

チュン・トツ作法 (Chun Tok ceremony) で初めて花嫁と花婿は夫婦として一緒に食事することになります。このときゲームを行います。食卓の下で花婿が足を伸ばして花嫁の足を踏むことができれば、その家の主人になれる。しかし、逆に花嫁に足を踏まれたら、花嫁が家庭を牛耳ることになります。夫婦が食べているとき、傍観者はろうそくを観察しています。花嫁側にあるろうそくは花嫁の寿命、花婿側のは花婿の寿命を表しています。火がより長く持つほうが長生きするといわれています。しかし、縁起を担ぐ為に、家族は両方の火が同時に消えるようにろうそくを吹き消します。

誕生日と葬式のショーケース



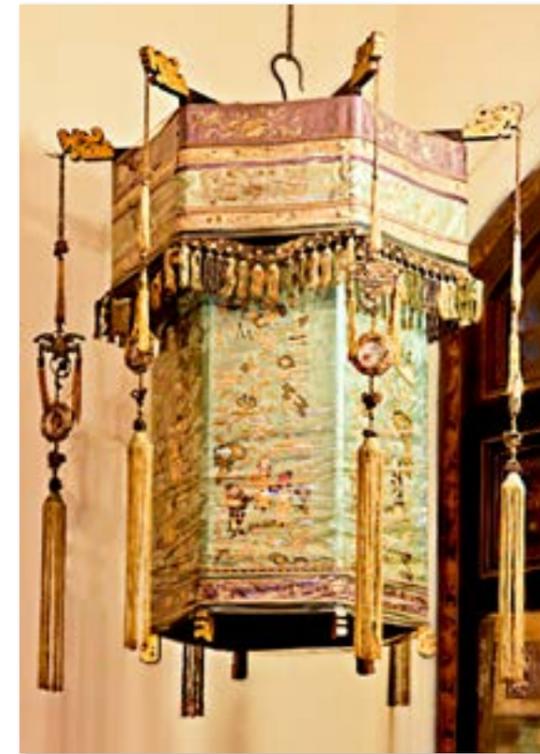
a. 誕生日

誕生日は人生の節目として大きく祝われていました。この服装はギー・ギョク・ニョー氏（Mak Gemuk、太っているママ）が71歳の誕生日にもらったものです。彼女は皇室服装のような正服を着て孫たち（cucu）や訪れる親戚に「アン・パオ」（ang pow、祝い事の時与える祝儀のこと）をあげます。

この日に美味しい料理が沢山用意されます。その中には「ミー・スアー」（mee suah）という長生きを意味する麺料理と、楽しい人生を意味する「ネバネバのライス・ボール」と「kuih ih」汁の和え物と、子孫繁栄を意味する「卵」が主な料理として用意されます。これは家族と一緒に過ごす一番楽しい行事の一つでした。



誕生日と葬式のショーケース



b. 葬式

青はプラナカンの葬式の色です。葬式に食べるおやつ（kuih）まで青と白に染まっています。

チェン・シュー氏が1919年に亡くなったとき、家で祀られている神棚は全部白い紙でカバーされました。葬式用の提灯は町の住民に家の主人の死去を知らせるために家の外に置かれました。

プラナカンの葬式の作法や儀式に使うものは全て奇数でなければなりません。葬式は7日ー31日にわたって行われます。



a. 麻雀

麻雀とチェルキーはニョニヤたちに親しまれている遊びです。麻雀は 4 人で遊べる遊びです。このゲームは牌を揃えて得点を重ねていくことで勝敗が決まります。ニョニヤ・ジュー・スアン氏は麻雀が大好きでした。麻雀は彼女にとって義理の姉妹と親戚と交流する場でした。彼女はよく三輪車乗って「テンケーラー」(Tengker) まで行って幼なじみと麻雀をやっていました。

チェルキーは麻雀を単純化した、短いバージョンの麻雀です。



b. チェルキー

ニョニヤとビビク(メイド)の服装

若いニョニヤは「Baju Kebaya」(バジュクバヤ)というレーストップに「サロン」というスカートのように腰に巻く腰布をセットにした服装を着ます。そして「Kerosang」(ケロサン、一枚目は ibu で、他の二枚は anak と呼ぶ)という飾り留めピンを使ってトップを留めます。髪型は「Sanggul」(サングル)というおだんご頭をし、蜜のピンで留めます。

続きの Part 3 は下の階で受け付けております。



中華系プラナカンは、自分の宗教的信仰を維持しています。それは道教、仏教、祖先の崇拝、三つの融合です。祖先の崇拝は、孝行を通して年上の人に対する敬意を示す一つの風習です。

この祖廟はチャン一家の祖先に捧げるために建てられたものです。礼拝 (Sembahyang、セムバーヤン) は年間 7 回行われます: 祖先の誕生日の日、命日、死者の日、旧正月、盂蘭盆 (うらんぼんえ)。今日キリスト教徒になった人もいますが、祖先を奉納する活動は家庭にとって大事な家族団欒の時間です。

a. 先人の遺影: チュー・ポイエ・ヤン

一家の長男として、チェン・シュー氏は父と母の位牌を祭壇に維持する責任があります。

チェン・シュー氏の母チュー・ポイエ・ヤン (1845-1903) の遺影は祭壇の一番上の段の真ん中に置かれています。この遺影はプラナカン文化を代々伝える役割を果たしています。ババニョニヤの社会において、ババは家庭の中で一番力を持っているのに対して、若いニョニヤは家庭を牛耳るのことができません。そういう社会ですが、多くの物語が、気が強いプラナカン姑は家において大きな力を持っていたと伝えています。





b. チェン・シュー氏の葬式

チェン・シュー氏の葬式は盛大に行われました。ザ・ストレーツ・タイムズ (The Strait Times) の 1919 年 11 月 26 日の報道で、以下のように報道されました:

故チャン・チェン・シュー氏の葬式は昨日行われました。葬列は、ひーれんストリートに合った彼の住まいを 11 時 45 分に出発し、億万長者が眠る Peringgit の墓地に向かいました。使われた天蓋は、過去十年に置いて、マラッカで最も素晴らしく、最も高価なものでした。



この写真は1940年頃に撮影されました。

c. チェン・シュー氏の葬式

セン・キー氏とホ・ジュー・スアン氏の第一子はチェン・シュー氏が他界した数年後の 1923 年に生まれました。二人には 8 人の子供がいました: 男 4 人、女 4 人。8 人の子供はそれぞれ家庭を作り、現在の一族は 7 代目です。



こちらでは、プラナカンの結婚式における数多くの儀式の中の一つを展示しています。髪梳かしの儀式であるチュー・タウは成人式の役割をしています。花嫁と花婿は本番の結婚式の前に、各自の家でチュー・タウを行います。

この三段階の祭壇 (Sam Kai) は最高の神様である「Ti Kong」を祭るために使われています。通常は客殿の外に、街の方を向いて置かれます。竹のトレイ (Niru) は世界を意味します。花婿、あるいは花嫁はトレイの中に上がり、お米の計量さじ (Gantang) の上に座ります。

儀式の指揮者である女性、「Sang Kheh Umm」は花嫁を助けるのに対して、年上の男性、Pak Chindek は花婿を助けます。

花嫁と花婿は「Gantang」に座りながら、これからなる自分の新しい役割を教えるアイテムと共に祈りの本を膝に置きます。定規は公正、ハサミは夫婦平等、かみそりは慎重、鏡は物事の善し悪しを見分けること、櫛と 3.5m 長の糸は 3.5 代くらいまで長生きすることを意味しています。

ダイニング・ルーム



Tok Panjang はロング・テーブルという意味です。Tok は福建語でテーブルを意味し、Panjang はマレー語で長いという意味です。8 人の子供もいる大家族のチャン一家では、長いテーブルは必要不可欠です。年配の世代は手で食べる人が多いですが、食器を使用したイギリス・スタイルの食べ方をする人もいます。一家の晩ご飯は毎日午後7時きっちり始まります。家族全員食卓に揃わなければなりません。晩ご飯の主食として家鴨スープ (itik tim)、パンギノキの実 (buah keluak)、ジャガイモと豚肉の醤油煮込み (babi pong teh)、万能な辛味調味料 (sambal belacan) が食べられます。そして海老のすり身 (cincalok) も必要不可欠な一品です。

b. ニョニヤ磁器

プラナカンは磁器文化で有名です。異なる場面に対応して様々な磁器が使われていました。



赤い磁器は誕生日や結婚式など特別な祝日にプレゼントとして使われます。



日常生活に使われる磁器の多くは Robinsons Singapore から購入したイギリス風のもので多かったです。



青色と白色の磁器は葬式に使われます。

キッチン



プラナカンの家の中心は、キッチンだと言われています。この家では二人のシェフがいました。メイン・シェフ (chong poh) は食材を市場から買い、アシスタント・シェフは食材と魚を調理します。一家の女性は調理を監視します。

キッチン(続き)

M



a. パウンドズ(調味料削りの石のお椀のような器具)

優秀なニョニヤは海老のすり身(belacan)を正しくたけなければなりません。将来の姑は(自分の息子の結婚相手の)ニョニヤが belacan をたたくりズムを聞くことによって良いお嫁さんになれるかどうかを判断できます。パウンドズは例えば米の殻を処理する、調味料や belacan を作るのに使います。この道具はインド系、マレー系、中国系の家で見ることが出来ます。

b. アイスクリーム・メーカー

家族はよくお店(keday)に練乳かけのパニラカイチゴ味のアイスクリームを買いに行きます。男の子供たちはアイスクリーム輪を最低 30 分くらい回してから戦利品のアイスクリームを楽しみます。



c. プトゥ・マヤム・メーカー

ジュー・スアン氏は料理よりパン焼きが好きでした。彼女の得意のおやつの一つはインド系おやつである putu mayam です。セン・キー氏は妻の作った putu mayam が大好きです。作るときにしゃがんで材料を準備しなければならぬため、とても骨の折れる作業です。そのため、セン・キー氏はこのメーカーを愛妻ジュー・スアンがしゃがまなくても作れるように改良しました。セン・キー氏は妻がおやつ(kuih-muih)を作るのを見ているのが好きでした。



キッチン(続き)

M



d. ストープ

この家は木製の窯が二つあります。一つはここに、もう一つは祝日にしか使わないため裏側にあります。この窯はシェフ(chong poh)が料理に使う品々を展示しています。ご飯炊きとスープ作り用のポット、火をたくための扇子などです。

バス・ルーム

N

この家では二つのバス・ルームしかありません。それぞれ上の階と下の階にあります。

トイレは和式で、それほど豪華なトイレではありません。

Jamban と呼ばれ、コンクリートの床に穴が開いた感じでとてもシンプルなトイレです。石灰(kapir)を穴の中に入れて、紙を短冊に切り(chor chua)排泄後に自身をきれいにするために使います。それに、トイレを使う者は、バランスを保ち、きちんと穴に排泄しなければなりません！

60年代まで下水設備が整備されていませんでした。それまではバケツ・システムを採用していました。毎日家の前に訪れ一家の排泄物を集める人がいます。その人はきれいなバケツを一家に渡し、排泄物が入ったバケツをもらってきれいにしてくれます。